

中間圏・熱圏・電離圏(MTI)研究会会合

5月24日(火) 12:30-13:30

話題提供

1. 宇宙研「RFI(太陽地球惑星圏の研究領域の目的・戦略・工程表)」の改訂について(齊藤昭則・京都大学)
2. 2024年夏期のS310-46号機の観測ロケット実験(齊藤昭則・京都大学)
3. 合同研究集会におけるMTI研究集会のご案内(新堀淳樹・名古屋大学)
4. 合同研究集会におけるSTE現象報告会のご案内(阿部修司・九州大学)
5. IUGONET関連の研究集会・講習会のご案内(田中良昌・国立極地研究所)
6. ISEA-16開催のお知らせ(9/12-9/16)(横山竜宏・京都大学)
7. SGEPSS将来構想文書の改訂について(新堀淳樹・名古屋大学)
8. その他

合同研究集会におけるMTI研究集会のご案内

日時：2022年9月下旬(予定)

形式：ハイブリッド形式(現地：名古屋大学 + Zoom)

申し込み期間：8月中旬－9月中旬(予定)

周知方法：SGEPSSなどのメーリングリストにて周知

MTI研究集会内容

1. 中間圏・熱圏・電離圏(MTI)分野の学生・若手研究者の育成

研究発表と質疑応答の場を提供し、最新の研究成果を日本語で正確に発表するとともにその内容についての質疑応答時間を多くとる

→研究の視野を広げ、研究内容の理解度を高める

2. 衛星観測の将来計画に関する発表の取り入れ

→現行、および新たな研究プロジェクトの立案にむけた議論

3. 地球だけでなく他惑星に関連したMTI分野の発表の取り入れ

→比較惑星学的見地に基づく広い意味でのMTI結合過程の理解を深める

合同研究集会におけるMTI研究集会のご案内

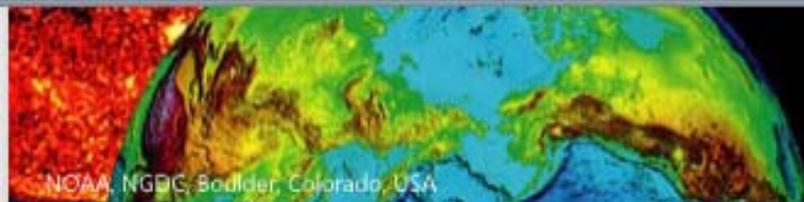
開催形式

MTI分野と密接なかかわりを持つ申請中の研究集会「STE現象報告会」「宇宙空間からの地球超高層大気観測に関する研究会」「太陽地球系物理学分野のデータ解析手法、ツールの理解と応用に関する研究集会」と共同開催

各研究集会の役割

1. 太陽地球環境の概況と現象の理解
→ STE現象報告会
2. 太陽地球環境データ処理技術の習得とその問題解決
→ 太陽地球系物理学分野のデータ解析手法、ツールの理解と応用に関する研究集会
3. 太陽地球大気環境変動に関するサイエンス成果創出
→ MTI研究会、宇宙空間からの地球超高層大気観測に関する研究会

SGEPSS将来構想文書の改訂について



[Home](#)

将来構想

■「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」

将来構想検討ワーキンググループでは、2019年7月時点での当学会の将来構想をまとめました。以下にPDF版で公開いたします。

「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」2019年版

「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」2018年版 本編(16MB)

「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」2018年版 本編(16MB)、要約版(1.6MB)

[このページのTOPへ戻る](#)

SGEPSS将来構想文書の改訂について

MTI分科会が担当する改訂箇所

2 地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と科学課題

2.1 太陽活動により変動する太陽地球圏環境の解明

2.1.2 地球圏に影響を及ぼす太陽風・太陽放射

2.1.3 地球気候に対する太陽活動の影響

2.2 宇宙につながる大気圏・電磁気圏環境の解明

2.2.1 下層大気から中層・超高層大気への影響と緯度間結合

2.2.2 中性大気・プラズマ相互作用

2.2.3 電離圏と磁気圏との間の領域間結合過程

2.2.4 地球大気の人為起源変動・内部変動がもたらす超高層大気への影響

2.4 宇宙プラズマ・地球惑星大気における物理素過程の理解

2.4.2 弱電離プラズマ・中性大気の物理

2.8 太陽地球系と地球内部を結ぶ科学課題

2.8.2 地圏を含むグローバルサーキットモデルの再構築

SGEPSS将来構想文書の改訂について

MTI分科会が担当する改訂箇所

3 社会との関わり

(前回版の「人類活動を支える知識基盤の構築」に相当)

3.1 人類社会基盤への影

3.1.2 太陽地球圏現象が既存の社会基盤に与える影響

GICの地上インフラへの影響

3.2 知識基盤の構築に向けた研究課題

3.2.2 宇宙天気分野における予測研究

改訂方針

前回版の文章構成を基本とし、2019年以降の3年間で進展があった項目を中心に修正を行う

改訂締め切り：7月11日